

蒲田西地域力推進センター！ 同分館 オープン予定のお知らせ

令和八年十一月中旬に「蒲田西地域力推進センター」及び「蒲田西地域力推進センター分館」という二つの施設が新たに開設予定です。

両施設は、蒲田西特別出張所を中心に様々な団体が日頃から密に連携することで相乗効果を生み、区民サービスを効果的・効率的に提供するとともに、更なる地域力の推進を目指していきます。

これから両施設について紹介していきます。

① 蒲田西地域力推進センター（仮称）大田合同庁舎内 一、四階の区入居部分）

住所…西蒲田七、十一、一

※令和八年十一月三十日開設予定



（仮称）大田合同庁舎

現在建設中の（仮称）大田合同庁舎には、五階から七階までのフロアに大田都税事務所が入居する他、一階から四階までのフロアに蒲田西特別出張所に加え、後述のとおり区関係団体が入居し、この部分を蒲田西地域力推進センターと呼称します。

この蒲田西地域力推進センターの一階には蒲田西特別出張所が入り、住民票の交付等、様々な行政サービスを受けることが出来ます。二階は会議室、三階は地域包括支援センター西蒲田、シニアステーション西蒲田等が入り、高齢者やそのご家族の介護等に関する総合的な相談に応じ、高齢者の元氣維持・介護予防から最適な介護サービスへの切れ目のない支援の提供を行います。四階には社会福祉協議会、大田区いきいきごとステーション、大田区シルバー人材センターが入り、地域福祉の推進、就労支援、高齢者の社会奉仕等の活動機会の提供を行います。

② 蒲田西地域力推進センター分館

住所…西蒲田七、十二、七

※令和八年十一月一日開設予定

旧蒲田西特別出張所跡地に八月末に竣工した複合施設は蒲田西地域力推進センター分館という名称となり、一階は三・四階の集會室・多目的室の受付、二階は一時預かり保育室、三・四階は地域の皆様等がご利用いただける集會室・多目的室、五階はJOBOTA・SAPOTA・フラットお

たが入ります。

当施設内の集會室・多目的室は、前号（九十八号）で紹介したふれあいはずぬまの代替施設としての役割も担っています。具体的には、三階には集會室が二室設けられ、会議や書道・絵画等をはじめとした文化的な活動を中心にご利用いただけます。四階は多目的室が二室設けられ、体を動かす活動を中心にご利用いただけます。また、多目的室はスライドウォールを動かし、第一多目的室と第二多目的室をつなげて写真のような一つの広い多目的室として使用することも出来ます。その他詳細は施設の窓口（TEL 03・6410・2105）までお問合せください。



蒲田西地域力推進センター分館

開設後は両施設を通じて、笑顔とあたたかさあふれる地域共生社会の実現を目指し、地域活動の拠点として運営していきます。また、区民にと

って便利で快適にご利用いただける施設を目指していきます。

（資料提供 蒲田西特別出張所）



仕切りのない状態の多目的室

蒲田西特別出張所管内

人口	男	33,683 人
	女	30,963 人
	計	64,646 人
世帯	39,348 世帯	

令和8年8月1日現在

ウェブで「かまにし17」を検索すればカラー版を見られます！

「かまにし17」をお読みいただき、ありがとうございます。ご意見や感想、または投稿などございましたら、事務局までお寄せください。

事務局 蒲田西特別出張所
大田区西蒲田七ー二ー二
電話 373214785

令和8年9月1日発行

かまにし

発行 地域力推進蒲田西地区委員会
編集 地域情報紙編集委員会

第99号

ボランティアで地域に尽くす人



わがまちの顔
あおき 青木 英明 さん

今回、わがまちの顔は、西蒲田五丁目で長年、酒類、食品の販売店を営む青木さん（現在はご子息さんが社長）です。取材をしたのは、梅雨の晴れ間、少しムシムシする今年の六月二十九日十一時頃、女塚神社の社務所でした。

昭和十六年五月二十六日大城通り沿いで生まれ、昭和二十八年相生小学校卒業、昭和三十一年御園中学校



消防団時代の写真

を卒業され、法政大学を出られました。当時の相生小学校は戦火で校舎がなく、四クラスで二部授業でした。創業八十年のお店のカタワラ、昭和四十八年に発足した矢口消防団に入団、矢口第一分団分団長、矢口消防団本部副団長を経て、平成二十九年三月に退団するまで、四十四年にわたり、地域に貢献しました。消防団、現役の平成二十三年春に藍綬褒章、退団後の令和四年に瑞宝単光章を受賞しました。

平成四年には人の命を救う使命の民生委員を受けて、平成十二年に発足した介護保険がまだない時代に、一人暮らしのお年寄りや、健康や生活に不安のある方の安否確認などの業務で忙しい日々を送りました。

消防団や民生委員を終えた後は、西蒲田女塚町会の会長として十年、その前の副会長などの年月を加えると三十年、地域の方々と歩んで来ました。

現在は西蒲田の鎮守、女塚神社の責任役員を続けています。

青木さんは、八十歳をすぎ、家族や周りの方の迷惑にならないよう「サンデー毎日」の身分なので、毎日歩くこと、人との会話、足の向くまま、気



青木さんが営む青木商店

の向くまま、いつも楽しく、自由な晩年を過ごしています。

人の一生は、それぞれ違いますが、最近では季節の四季に例えて考えています。春は生まれて、学校卒業までの楽しい青春時代、皆横一線で同じ。厳しい暑さの夏は社会人となって、人一倍、汗をかき、頑張って仕事、家族、友人を大事にしました。友人とは、時々、伊豆七島へ、インダイやモロコを釣りに行きました。夕方、仲間と蒲田駅近くに集まり、車で下田へ行き、朝、渡船で新島や神津島へ渡った思い出があります。

あらゆる物の豊かなる秋の収穫期には、なるべく長く生きて、人生楽しんで、お迎えが来る冬は、短く人生を終わりたいと思っています。

若い頃からボランティア活動にかかわり続ける青木さん、これからもお元気で地域の皆様と活動することを、お祈りしています。

（取材 青木・斉藤委員）

蒲田夜市とは

蒲田夜市は蒲田駅西口駅前広場を会場として、「音楽」と「食」をテーマとして令和七年八月一日・二日の二日間、初めて開催されたイベントです。本紙第五十五号で蒲田西口にあった闇市について紹介しましたが、その歴史的背景と、英語でおいしいという意味の Y U M M Y をかけて、このようなイベント名としたそうです。

令和七年の本イベントは地元の大田区出身の超有名DJや、ストリートな歌詞と心に響くメロディーを歌う「シクラメン」をはじめ、豪華なアーティスト陣が蒲田の夜を彩りました。今年はミュージック&グローバルをテーマに出演者の多国籍化を行いました。

戦後八十年が経ち思う事

東京青年会議所の皆様方、社会の課題解決への取り組みに、心から感動の思いです。

時代が変わっても、蒲田の街は、人の賑わいの街なんだと実感します。戦後の復帰も早かった蒲田。明かりがつく時間に蒲田駅周辺に両親に手をひかれて歩いた記憶を今も思い出しま

高いです。

この結果や反響の大きさから蒲田という街はナイトタイムエコノミーを推進していくにあたり、寛容かつ相應しい街であるとの印象を受けました。

今回の三本柱

① Welcome foreigner sticker を蒲田の飲食店に配布・貼付を行う。
五十店舗を目標にステッカーを貼付し、外国籍の方が安心して飲食店に入店できる導線確保を図ります。

② 回遊マップの作製配布

蒲田に降り立った方々の複数店舗回遊を促すための施策として、イベント数週間前からホテル等で配布します。「ドルを円へ」を促します。

③ 当日マップの作製配布

当日三日間使用できるマップを日本語版と英語版の二種類作成し、蒲田の街を楽しく回れる当日マップを配布します。

今後の展望

本年度より「大田区ナイトタイムエコノミー振興協会」を発足させ、この団体を中心に地域の方々に事業移管を検討中です。

【ナイトタイムエコノミー】

単に夜遊びの場を増やすことでは



大盛況のイベント風景



音楽イベントの様子

す。駅前の商店、ネオンの明かりと同じぐらい眩しかったハダカ電球の明かり、軍人さんが奏でるアコーディオンの音、少し年数が経つと、蒲田駅前では街頭テレビ、父親に肩車をしてもらって観た「空手チョップ」力道山。大勢の人だから、不思議なぐらい人が集まる街、昔から、今も変わらぬ街の姿が蒲田の魅力だと思います。

本年度開催予定

・日時 二〇二六年八月二十九日(土)～三十一日(月)、十六時から二十一時まで(初の平日を含む三日間開催)

なく、夜間という時間を安全で、文化的で、経済的に価値のあるものへとデザインし直す、都市全体の総合的な戦略です。

事業移管のバックデータとして、今年初の平日を含む月末土曜・月曜日の三日間開催により、夜間という時間の週末、週末以外の需要や、周辺店舗への経済効果、騒音、混雑、治安等の定量データを多角的に検証。

その結果を分析、蓄積し、今後の運営に反映させていくことも(公社)東京青年会議所大田区委員会の考えです。



イベントスタッフの集合写真

・開催場所 JR蒲田駅西口広場周辺
・出店店舗 公益社団法人東京青年会議所の呼びかけの下、蒲田料理飲食協同組合・バーボンロード商店街など各関連店舗

※発行日前日に開催のため、予定で記載しています。

開催の背景

大田区は羽田空港という世界とつながる窓口がありながら、外国籍の方は2%しか蒲田駅には足を運んでもらえないというデータがあり、蒲田駅に足を運ぶ心理的なハードルを下げたいとの思いから「夜の蒲田」イベント(音楽と食)が始まりました。また、蒲田駅では夜の二十時にはイベントを終了しようという暗黙の了解があり、ナイトタイムエコノミー(日没から日の出までの経済活動)を更に活発にしていくための先端事例を創造することも目的として始まりました。

今年からの取り組み

令和七年の開催にてイベント開催エリア外でのゴミのポイ捨てがあったことや、その他、様々な管理が十分でなかったことの反省を受け、更に安全安心なイベントとするために十分な誘導員を配置し、夜間動線等の徹底管理を予定しています。また、蒲田西



駅前の出店

主催団体紹介

公益社団法人東京青年会議所は、二十歳から四十歳までの青年を中心に構成され、「明るい豊かな社会」の実現を目指して活動する団体です。戦後間もない一九四九年に、日本で最初の青年会議所として発足し、今年で七十七年目を迎えます。地域が抱える課題を見つけ、その解決方法を考え、実際に事業として形にしたうえで成果を検証するという一連の活動を、毎年繰り返しています。

現在は約六百名が所属し、そのうち大田区委員会では約五十名が活動しています。今後も地域の皆さまから率直なご意見を賜り、より良い活動につなげてまいります。

(取材 寺嶋・伊藤委員)